

# 新聞切り抜きでたどる筑豊ゼミ創設のころ

1987年（昭和62年）～ 1988年（昭和63年）

<p>一 九 八 七 年</p>	<p>2.1 読売新聞筑豊支局の提唱により「あすの筑豊を考える30人委員会」(以下、30人委員会)発足(初代委員長 大里叶)</p> <p>7.25 30人委員会嘉飯山ブロック会議に本郷学部長出席「大学人が求める学園都市」について発言。次回「大学は地域に何ができるか、地域は大学とどう付き合っていくべきか」をテーマに(読売 7/26: “見えますか筑豊が” 『学園都市づくり』意識改革を 飯塚市・市民・大学の協調必要)</p> <p>9.12 30人委員会嘉飯山ブロック会議と本郷学部長、曾根教授、山田助教授(短大)、下村助教授(短大)が意見交換。委員から「住民を対象としたゼミを開講できないか」との要望が出て、大学側が「開けないことはない」と回答。(読売 9/13: “見えますか筑豊が” 「大学自ら情報公開を」)</p> <p>12.9 地域の有志、30人委員会委員と本郷英士学部長との間でゼミ開講の可能性について協議</p>
<p>一 九 八 八 年</p>	<p>2.9 地域の有志と本郷英士学部長との間でゼミ開講のための準備について打ち合わせ</p> <p>2.25 地域の有志8人が、「筑豊ムラおこし・地域づくりゼミナール」開講のための発起人会を設立。代表に高橋幸雄さん、野見山薫さん、事務局長に加地 豊さんを互選。30人委員会は全面支援を決定。</p> <p>2.26 発起人会が近大九州工学部へ「地域づくりゼミナール開講要望書」提出 (読売 2/27: 『筑豊おこしゼミ開講して』地域団体が近大工学部に要請) 30人委員会委員・加地豊(稲築町)、工藤俊幸(田川市)、嘉飯山進出企業連合会副会長・高橋幸雄(飯塚市)、宮田国際音楽祭実行委員会事務局長・小磯勲(宮田町)、兵士・庶民の戦争資料館・武富登己男ら7人)</p> <p><b>[要望書]</b></p> <p>貴大学におかれましては、ますますのご発展の趣、心からお喜び申し上げます。また、貴大学の「地域に開かれた大学」という基本方針は地域住民に筑豊にも新しい時代が来つつあることを強く印象づけ、胸を弾ませるものにもなっており、深く感謝しております。</p> <p>さて、私たちはこのたび「筑豊ムラおこし・地域づくりゼミナール」を開催したく、検討して参りましたが、貴大学のご支援をぜひともたまりたく、ここに要望いたします。</p> <p>ご承知の通り、旧産炭地の筑豊はこれまでヤマの長い影を引き摺ってまいりましたが、この2、3年でようやく自らの力によるムラおこし、地域づくりの気運が高まり、今や小さくない流れになりつつあります。が、それらにかかわる各団体、リーダーの交流する場に乏しく、意見を交換する機会もまだまだ少なく、ムラおこし、地域づくりに欠かせない知識の充実、情報の収集に苦勞しているのが実情です。この現状を乗り越え、さらに住み良い筑豊を築いていくために、ふるさとの中核的知識集団である貴大学のご理解とご協力を切にお願いする次第であります。</p> <p>「筑豊ゼミ」は出来ましたら、貴大学と私たちが近く設立するゼミ実行委の共催にさせていただき、貴大学には会場の提供と指導者の提供をお願いいたします。一方、ゼミ参加者は全員で実行委を組織し、運営に必要な経費を負担していく所存です。ゼミ開催は月1回とし、定例開催を目指したく考えております。</p> <p>どうか私たちの趣旨をおくみとりのうえ、要望にこたえてくださいますよう、願いあげます。</p> <p>3.1 筑豊ムラおこし・地域づくりゼミナール実行委員会(以下「実行委」)設立を目標にした発起人会を開催。4日、7日にも検討を重ねる。</p>

1988年（昭和63年）

一 九 八 八 年	<p>3.7 近畿大学九州工学部教授会が地域と協働した「筑豊ゼミ」の開講を決定。大学側の対応窓口を市民公開講座委員会とすることを発起人会に連絡。発起人会は受講者で「実行委員会」を設立することを申し合わせる。</p> <p>3.9 市民公開講座委員会と発起人会が合同で「筑豊ゼミ」の基本的な運営方針について意見交換し、次のような合意を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 大学側は、会場、指導者の提供をする。</li><li>2. ゼミ受講生は、募集し、全員で実行委員会を設立、大学に迷惑のかからないよう自主運営をする。</li><li>3. ゼミは、近畿大学と実行委員会の共催とする。</li><li>4. 1年間のカリキュラムは、大学と実行委員会の双方で運営委員会を設け協議する。</li><li>5. ゼミ受講生の要する費用については、実行委員会の負担とする。</li><li>6. 大学側に関する費用については、受け取らないものとする。</li><li>7. 年会費は4千円。開講日は毎月第2金曜日、午後6時半からとする。</li></ol> <p>ここに、全国に例のない大学と地域の共催によるゼミナールが誕生した。（読売 3/10:「大学・住民で筑豊再生ゼミ」）</p> <p>3.16 近畿大学九州工学部とゼミ実行設立発起人は飯塚市政記者クラブで「筑豊のムラおこし、地域づくり」筑豊のムラおこし、地域づくりゼミナール」実施要項発表。第1期 3月31日応募締め切り、4月22日開講以降、毎月第二金曜日開講、64年3月まで 定員40人（読売 3/17:「筑豊ゼミ来月22日開講」（西日本 3/17:「ムラおこし支援へユニーク公開講座」（毎日 3/23:「&lt;考えてみませんか&gt;筑豊のムラおこし」（読売 3/29:「見えますか筑豊が」筑豊ムラおこしゼミ 住民・大学連携の成果」）</p> <p>3.17 受講者の募集始まる。定員40人。3月末日締め切り。</p> <p>4.1 市民公開講座委員会と発起人会で開講までの仮ゼミ運営委員会(12名)を設置し、8日、18日と協議。事務局長加地豊さん。参加希望者は筑豊全域に広がり、定員の2倍を超える。30～40歳代が最も多く、地域づくりに直接かかわっている人たちだけでなく、会社役員、元町長、現職議員、染色家、老人クラブ役員など、顔ぶれがそのまま「筑豊の縮図」となっている。また、多くの自治体から職員が参加しており、自治体のゼミへの期待の大きさも伺える。（読売 4/3:「筑豊おこしゼミ大反響 定員2倍80人が応募」（朝日 4/3:「万華鏡」市民を対象に地域ゼミ 開かれた大学模索」（毎日 4/14:「好評ムラおこしゼミ」（読売 4/19:「見えますか筑豊が」再生探る『ムラおこし』幅広く多彩な『地域づくり』）</p> <p>4.22 開講式 定員の2倍以上90人が集まる。手探りの出発、バホキの情熱。本郷学部長挨拶「地域と大学 混沌からの出発」で「このゼミが混沌から出発して、やがては筑豊の明日を照らす会になって欲しい」。5学科の代表教授が「地域と私」をテーマに提言。相田哲夫教授(工業化学科):石炭は再び。入江富士男教授(電気工学科):自然を大切に。平松晃教授(建築学科):身近な分野で。曾根靖史教授(産業デザイン学科):起きて下さい。新井潔助教授(経営工学科):3倍楽しめる街。（読売 4/22:「今日から『筑豊ゼミ』」(西日本 4/22:「筑豊明日の顔」『筑豊ゼミ』きょう開講式「ゆずごしょう」議を言う」(フクニチ 4/22:「ムラおこしゼミ発進」(読売 4/23:「筑豊再生ゼミ」開講」(毎日 4/23:「筑豊ムラおこしゼミ」開講」筑豊ムラおこし・地域づくりゼミ 地域と大学が交流」(朝日 4/23) (読売 4/24:「ふるさとに良識築こう」(西日本 4/24:「筑豊印でムラおこし 熱気あふれた筑豊ゼミ」(西日本 5/1:「かわすじ日記」「明日の顔」と「好感度」)(毎日 5/2:「筑豊評論」ムラおこし考」)</p>
-----------------------	--

1988年（昭和63年）

一 九 八 八 年	<p>5.13 第2回講座 ムラおこしのけん引役を果たしている3グループが発表:民間主導の「フルーツ共和国(嘉穂町)のレジャー庁長官 森謙策さん。行政主導の「DO YOU 農?」(赤村)の村職員道広幸さん。住民パワーの「宮田国際音楽祭」(宮田町)実行委員長 船越泉さん。(読売 5/16:『「連帯、連携の場に」実践の成果発表』)</p> <p>6.10 第3回講座 大任町商工会青年部長 松下太さん「地域浄化のシンボル『しじみの里』づくり」飯塚市明るい街づくりの会事務局 有松賢作さん「政治倫理、行政情報公開の確立の原動力;市民意識、自治意識の高揚に役立つ目的性のある学習会、勉強会、市民講座」長谷保存会会員長谷寺副住職 渡辺祐昭さん「地域保存;昔のままであることへの誇り」(読売 6/12:「住民自治の重要性強調」)</p> <p>7.8 第4回講座 特別講義「地域交通体系と筑豊」“JR九州の改革とこれから” JR九州社長 石井幸孝 “第3セクター出発進行” 田川市助役 湯前 保”</p> <p>8.5 第5回講座 100名の受講生に応えるため、3分野 5分科会を設置</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. ムラおこし A. 産業おこしを考える B. イベントを考える</li><li>2. 地域づくりを支える役割 C. 住民自治を考える</li><li>3. 地域づくり D. 歴史と風土を考える E. 暮らしと教育を考える (読売 8/7)</li></ol> <p>8.14-29 30人委員会「愛らんど Myらんど 筑豊 みんなでムラおこし!展」(飯塚井筒屋「緑と水のふるさと展」「みんなでムラおこし!展」「ふるさと生まれの工業品展」の三部構成. ムラおこし展では「諸藤浩之葦ペン絵巻き筑豊三十年」「河村光陽童謡祭り」「ロックだ!炭坑節だ!」開催)(読売 6/1 “みえますか筑豊が” 「伝えたい地域の実像」で、筑豊ゼミでの発言を紹介)</p> <p>10.23 「風土と歴史を考える」分科会が長崎街道の「筑前六宿」を歩く。分科会長の中島忠雄さん(日本民族学会会員)を案内役に20名が、原田から山家、冷水峠、内野、飯塚、木屋瀬と巡る。(読売 10/25:“みえますか筑豊が”「筑前六宿を歩く(上) 鎖国の中の『文明の道』 ムラおこしにまず歴史検証」)(同 10/26:「同(中)『寒水の峠』に野鳥の響き 162年前シーボルトも超える」)(同 10/27:「同(下)峠の里に満開の桜 伝統の空気、うまい水残る」)</p> <p>10.- 第1回「I LOVE 遠賀川」開催(実行委員長曾根靖史、事務局長窪山邦彦). 235(筑豊ゼミ・イベント部会から生まれた遠賀川清掃イベント、30団体、約1,000人参加)</p> <p>11.25 特別講義「今、筑豊に求められるもの」福岡県知事 奥田八二 (読売 11/27:「筑豊振興人づくりから」「石炭のない現在の筑豊を前提に考えよう」「これからはソフトが勝負。ソフトは無限だ。それは頭の使い方であり、人づくりだ。」)(朝日 11/27:「自助努力の大切さ強調」「いつまでも石炭後遺症にとらわれて『筑豊には何もない』と嘆いては仕方がない。皆さん方が『何とかしなくては』と云う気持ちを持つことが大切」ケネディ米大統領の言葉を引いて「国(県)が何をなすべきかを問うな。諸君が国(県)のために何ができるかを問え。」)</p> <p>12.1~2 人類動態学会西日本地方会第十四回大会(飯塚市 近畿大学九州工学部)にて、筑豊ゼミ生4名が発表。初日 中島忠雄さん(穂波町)「生活の流れは遠賀川とともに一筑豊の歴史と風土」最終日 野見山薫筑豊ゼミ副委員長の司会で「ふるさと筑豊を語る—地域変動と個人史」をテーマに、フォーラム形式で、井上茂之さん(添田町) 野見山ミチ子さん(直方市) 加地豊さん(稲築町)が発表。(読売 11/18) (読売 12/2:「筑豊ゼミの中島さん講演『豊かに輝く石炭文化 実りの土地見直せ』」)(毎日 12/2) (読売 12/3)『「足元見つめ地域再生」筑豊ゼミ意見発表』(西日本 12/3「自立の精神を提言」)</p>
-----------------------	---

1988年（昭和63年）～ 1989年（平成元年）

<p>一 九 八 八 年</p>	<p>12.8 直方商工会議所「むらおこし事業」実行委員会、「30人委員会」直鞍ブロック会議、「筑豊ゼミ」実行委員会のメンバーが同商工会議所に集まり、「ムラおこし談義」を催し、地域活性化、地域浮揚の方策について意見交換。（読売 12/12「見えますか筑豊が」「ムラおこし 地域から盛り上げ」） （読売 12/9）「みえますか筑豊が」「地域イメージどう転換 名称変更効果あるが・・・」 11/25 奥田知事の筑豊ゼミでの発言「筑豊は石炭がくっつけた地域であり、石炭がなければ『筑豊』はない。地域が生まれ変わった時『筑豊』と云う言葉があるだろうか」 12/1-2 の人類動態学会では、福岡市の学者「イメージを良くしようと思えば『筑豊』という言葉を変えてしまっただけいい。名称変更はとても効果があるものだ」加地豊さん「良く言われることの少ない我々のふるさと『筑豊』ゆえに『筑豊』という呼び名にいとおいさを感じる」『筑豊』は強力な知名度を持つが、「嘉飯山」、「直鞍」、「田川」を知っている人は少ない。『筑豊』の範囲もマスコミでは「嘉飯山、直鞍、田川」だが、「筑豊教育事務所」は「嘉飯山と田川」で直鞍を含まず、「福岡通産局筑豊石炭事務所」は六市五郡（北九州、中間、直方、飯塚、田川、山田市と宗像、遠賀、鞍手、田川、嘉穂郡）です。 （読売 12/31）「みえますか筑豊が」 第I期筑豊30人委活動報告「活性化の努力 線から面へ」・筑豊賞・筑豊ゼミ創設・愛らんど Myらんど 筑豊展・緑と水のふるさと展・みんなでムラおこし展・ふるさと生まれの工業品展 等、筑豊おこしは着実に点から線に</p>
<p>一 九 八 九 年</p>	<p>1.1 第2回筑豊賞 大任町商工会青年部「しじみの里づくりに取り組む」小竹子供研「子供たちとの触れ合いの中で健全育成を目指す」武富登己男さん「兵士・庶民の戦争資料館」近畿大九州工学部に特別賞「地域文化向上へ施設開放やゼミ」（読売 1/1:「第2回筑豊賞決まる」） 1.13 筑豊ゼミ全体会議で、地域づくり情報センター（仮称）をつくる道を探るため、プロジェクトチームの結成を提案し、了承を得た。 2.4 第2期「筑豊ムラおこし・地域づくりゼミナール」（実行委員会設立準備発起人（代表渡辺祐昭さん[長谷保存会]、中村雅彦さん[まつりボタ山実行委員会]、杉原敏子さん[筑豊30人委]ら8人）近畿大学に引き続きゼミ開催を要望。大学も会場提供と教員派遣を約束。ただし、昨春定員を大幅にオーバーしてかなりの人を断ったいきさつから、現受講生を一期生とし、新たに実行委員会を立ち上げ、第二期「筑豊ゼミ」を設ける。（読売 2/5:「第2期『筑豊ゼミ』4月開講へ」）（毎日 2/5:「筑豊ムラおこしゼミ、来年度も」（西日本 2/10）「継続開催が決定」） 2.10 5分科会の報告会 各代表がこれまでの学習成果を総括、第一期を実質的に終了 「歴史と風土」=中島忠雄さん(57)「筑豊のことを知らないまま暗いイメージが先行。六千年を総括した「筑豊総合年表」わが町、わが村を集大成した「筑豊ハンドブック」「筑豊マップ」の作成。さらに、日本の近代化を支えた石炭産業の全容と炭鉱労働者の生きざまを刻んだ筑豊の記念碑として「石炭産業資料館」建設を提唱。 「産業おこし」=時任英雄さん(57) 市民ぐるみの地場産業おこし、伝統的技術の発掘、地域リーダーの育成が課題。「産業おこしは人おこし」と結論。 「イベント」=窪山邦彦さん(45)・幸田雅介さん(31) 遠賀川流域のまつりやイベントをスライドで総ざらい。一大イベントとして、「菜の花の咲くころ上流から下流まで50キロを住民同士で手を繋ぎ合おう」 「住民自治」=野見山ミチ子さん(47) 一般住民と行政、大学が同じテーブルについてこそ、自治の思想が線となり面に広がっていく。</p>

1989年（平成元年）

一 九 八 九 年	<p>「くらしと教育」=市吉七海さん(47)「人づくりは子育て」と位置づけ「子供の自主性を育て、手助けするのが親と教師の役割」と提言。また、高齢社会、障害者、教育行政など幅広いテーマについて分科会参加者が共有した問題点を整理。(西日本 2/12:「石炭産業資料館を 地域づくりの提案次々」)(読売 2/12:「石炭モニュメント提言 新たな地域史の礎に」)(同 2/22:「筑豊緑地に石炭記念碑を 犠牲者の追悼の場に 過去を振り返り心を再生」)</p> <p>2. 25 筑豊ゼミ加地事務局長 日本計画行政学会九州支部大会(福岡大学)で「筑豊における地域おこし」の題で発表(読売 2/22:「筑豊ゼミ行政学会で発表 住民が主導のムラおこし紹介」)</p> <p>3. 2 第二期「筑豊ゼミ」受講生募集要項発表。(読売 3/3)「筑豊 25 市町村から職員別枠も」(朝日 3/3)(西日本 3/4)(毎日 3/5)</p> <p>3. 10 第一期「筑豊ゼミ」閉講式 本郷学部長「『混沌』から始めたこのゼミを『誇り』で終わりたい」とお祝いの言葉。受講生を代表して武富さんが「目指す方向と実行する方法が見えてきた」と謝辞。修了証書は曾根靖史教授デザイン。優秀受講者 5 名と加地事務局長に「エンピツ賞」。修了式後イベント分科会のプランニングによる記念パーティーで大学側の責任者内村喜之教授と事務処理を引受けた前田貴子さんに、リンゴの苗木と花かご贈呈。(読売 3/11:「100 人に修了証書」)(朝日 3/11「ムラおこしイベントわれわれが引き受けた」)(毎日 3/11:「老い易くともガクガクなる」)(西日本 3/12:「地域おこしの情熱確信」)(フクニチ 3/21「記者の目」「筑豊のむらおこし 地域活動の人材着々と育つ」)</p> <p>(紙名不詳 3/25) 3 月 15 日締め切りの第二期受講生(定員 50 人、自治体職員枠 25 人、計 75 人)約 100 人申し込む。</p> <p>(西日本 4/1) 筑豊ゼミ第二期受講生 107 人応募(民間:筑豊のほぼ全域から 56 人 自治体枠は 21 市町村から1-5人ずつ計51人が受講。嘉穂、鞍手各1、田川2の計4自治体が辞退)</p> <p>(読売 4/11)第一期修了生 100 人の内、約 60 人が自主運営で“進級講座”を継続。14 日夜の「まちづくりのイロハ」(袖先栄一教授)から始まり 1 年間。川崎町では筑豊ゼミ「川崎教室」の開設準備</p> <p>4. 14 筑豊ゼミ進級講座開講:袖先栄一教授講演「まちづくりのイロハ」講座の運営方法:△遠賀川堤防でイベント実施計画策定 △教材として使えるふるさとを歴史で紹介したビデオの製作 △筑豊緑地公園に石炭関係の記念(祈念)碑的な場の基本設計 等 (読売 4/15:「進級講座スタート ふるさとビデオ制作、石炭碑設計手がける」)</p> <p>4. 21 第二期「豊ムラおこし地域づくりゼミナール」開講式。113 人(筑豊 21 市町村から 53 人、県職員・国家公務員 5 人など、20 才 OL から 74 才団体役員まで)が入学。本郷英士学部長「中国古典の詩経から“滢滢”(しょくしょく=水が澄んで底の小石までみえること)という言葉引用しながら地域浄化を訴え、「普段の努力が大切」と挨拶。(読売 4/22「筑豊ゼミ開講 113 人が地域づくり学ぶ」)(朝日 4/22「2 期生は 113 人」)</p> <p>5. 4 筑豊ゼミ「川崎教室」(川崎教室実行委員会 代表:小野聖毅)受講生募集(読売 5/4「川崎にも筑豊ゼミ」)(毎日 5/7)</p> <p>4. 21 第二期「豊ムラおこし地域づくりゼミナール」開講式。113 人(筑豊 21 市町村から 53 人、県職員・国家公務員 5 人など、20 才 OL から 74 才団体役員まで)が入学。本郷英士学部長「中国古典の詩経から“滢滢”(しょくしょく=水が澄んで底の小石までみえること)という言葉引用しながら地域浄化を訴え、「普段の努力が大切」と挨拶。(読売 4/22「筑豊ゼミ開講 113 人が地域づくり学ぶ」)(朝日 4/22)</p>
-----------------------	---

1989年（平成元年）

一 九 八 九 年	<p>5.4 筑豊ゼミ「川崎教室」(川崎教室実行委員会 代表:小野聖毅)受講生募集 (読売 5/4「川崎にも筑豊ゼミ」) (毎日 5/7)</p> <p>5.24 筑豊ゼミ川崎教室開講:川崎町勤労青少年ホームで開講 受講生 30人+住民計 50名出席。本郷学部長「住んでいる人それぞれが具体的にふるさとを愛していこう。正午になったから昼飯を食うのではない。人間は空腹になるから食事をするのだ。住民も自治体も、もらう、もしくはもらった金をどうするか、と云った中途半端なところからものごとを考えず、根本を常に大切に地域活性化の策を推進していこう。」と挨拶。原口栄弘 川崎町町長、大里叶 明日の筑豊を考える 30人委員会委員長、加地豊 筑豊ゼミ事務局長 がお祝いの言葉。(読売 5/26「古里見つめ浮揚策探る」)</p> <p>(読売 6/1)“見えますか筑豊が” 三つの言葉(上)「混沌」「謬謬」「湜湜」:筑豊の抱える問題の本質を突いているうえ、解決への展望も示しており、運動を続けている人々にとっては心の支えにもなっている。「ふるさとと思う心の支え」</p> <p>(読売 6/3)“見えますか筑豊が” 三つの言葉(中)本郷学部長が語る生い立ち、大分県久住町白丹から広島文理科大時代の被曝まで「過疎、被曝を原点に」</p> <p>(読売 6/6)“見えますか筑豊が” 三つの言葉(下)「大学開放スイスに学ぶ」筑豊との縁:九工大情報工学系学部創設準備室長から近大九州工学部へ</p> <p>6.7 筑豊の地域浮揚を担う財団法人「筑豊地域づくりセンター」(仮称)設立に向けた調査・研究の全容を収録した報告書を完成、一般販売を開始 (西日本 6/8「調査研究報告書を刊行 地域づくりセンター 基金の足がかりに」)(読売 6/9「古里浮揚に提言 住民と大学足並みそろえる『筑豊地域づくりセンター』最終案まとまる」)(フクニチ 6/19「地域づくりセンター設立へ 筑豊ゼミ報告書を作成、販売」)</p> <p>6.9 第二期筑豊ゼミ 山本文男 添田町町長講演「行政とムラおこし」『行政主導のムラおこしだと、新たな甘えを生むことも考えられる。最後は民間主導にしなければならない』石炭の百年について『得たものも大きかったが、失ったものもまた大きかったと言わねばならない。伝統的な技術、工芸が途絶えたり、遺跡、史跡がボタの下に埋もれたりもした。全体としては地域からいろんなものを生み出していく力が低くなっていった。それを取り戻すのは難しいことだが、だからこそ、ムラおこしが必要』と強調した。(読売 6/11「山本添田町長が講演『ムラおこし、民間主導で』」)</p> <p>6.28 第11回飯塚市文化連合会講座で本郷学部長「文化のまちづくりと大学」と題して講演 (西日本 7/3「地元が業を興そう 筑豊の歴史の深さ強調」)</p> <p>7.1 筑豊ゼミ「夜なべ談義」(筑豊ハイツ) 一般参加を含めて約70名が参加し熱い論議。「ふるさと創生」基金1億円を筑豊25市町村のトータルでとらえ、筑豊全体がスクラムを組める「使い道」の可能性を探った。“石炭利用を新たな視点で再検討する研究施設の建設”や“筑豊全域の観光ルート整備”などの他、“各市町村が少しずつ拠出して筑豊全域に役立てる”や25億円を一つの基金として積み立てれば、利子が年間1億円に上り、永続的に活用できる・・・(西日本 7/1, 7/3「25億円の基金活用を 筑豊ゼミが夜なべ談義」)(西日本 7/12「ゆずごしょう」情熱を核に・・・)</p> <p>7.14 第1期筑豊ゼミの報告書作成 ゼミで報告 (西日本 7/17)</p> <p>(読売 7/29)“見えますか筑豊が”「筑豊ゼミ報告書」(上)住学協同で地域おこし 多面的な視点で構成 (読売 7/30)“見えますか筑豊が”「筑豊ゼミ報告書」(下)地域おこしの手引書 実践と試行錯誤つづる</p>
-----------------------	---

1989年（平成元年）

一 九 八 九 年	<p>8.4 第2期筑豊ゼミ例会 4件の実践例(「遠賀川炎のまつり」直方市職員加藤直行さん、「桂川町のマスタープラン」桂川町職員井上利一さん、「河村光陽童謡まつり」赤池町職員山尾勝子さん、「宮田町上有木地区のムラづくり」上有木むらづくり協議会会長有吉正義さん。9月から始まる「マチづくり」「住民自治」「産業おこし」「イベント」「風土と歴史」「くらしと教育」の6分科会の運営方針などを協議した。(読売 8/5;「筑豊ゼミ前期日程終わる 4件の実践例発表」)(西日本 8/6:「分科会活動スタート 第二期筑豊ゼミ 民間と行政の実践報告も」)</p> <p>(西日本 8/13) “学園都市の主役たち” 近大 新井 潔 助教授 社会工学 住民参加型の将来像 筑豊での研究実践に意欲</p> <p>(西日本 8/27) “かわすじ今日談” 「語るは恥に有らず」 奥田知事の「筑豊は福岡県の恥」について 加地豊事務局長との議論から</p> <p>(西日本 9/4) “エンピツ・ノート・カメラ りぽーと” 筑豊浮揚へ新たな動き=筑豊ゼミ「地域づくりセンター」構想= シナリオ作りに総力 課題 自治体の資金援助</p> <p>(読売 9/20) “見えますか筑豊が” 生活体験学校⑨「人のつながりの拠点に」 筑豊ゼミ例会(9/7)に、生活体験学校生みの親の正平辰男 県教委就任社会教育主事を講師に招いて意見交換</p> <p>9.22 筑豊ゼミ 旧産炭地・筑豊の浮揚に地域の英知を結集した住学協同機構「筑豊地域づくりセンター」(仮称)の設立を決め、たたき台となる「第一次シナリオ」を発表 (西日本 9/23:「筑豊おこしの“よろず屋”つくろう 独自のシンクタンク計画」)(読売 9/23:「筑豊おこし「センター」づくり 住民-大学一体 聞き取り調査開始」)(朝日 9/24:「産学協同へセンター 基金など構想示す」)(フクニチ 10/5:「筑豊ゼミ永続的活動へ 来年初め『センター』に変身 地域おこしに提言や研究」)</p> <p>10.13 「筑豊地域づくりセンター」設立に向けて始動している筑豊ゼミのプロジェクトチームが公開討論会開催決定 (読売 10/15)</p> <p>(西日本 10/17) “ズームアップ筑豊” ・筑豊ゼミの歩みをたどる(略年表有り) 「旧産炭地の浮揚に 地域振興の担い手目指す 近大の支援で自主企画」 ・筑豊地域づくりセンター構想の現状と課題を探る 「住学」連携を 筑豊おこしに広域取り組み 課題は設立基金の拠出</p> <p>10.20 「筑豊地域づくりセンター」構想の機能、運営形態に関する第一次聞き取り調査結果を発表 (西日本 10/21「人づくり機能に期待」)(読売 10/21「研究型の組織求める 情報、人的拠点への期待感 首長ら86人の声を分析」)(朝日 10/22「『情報提供』が8割」)</p> <p>10.27 筑豊ゼミ特別講座 近大九州短大 永末十四雄教授講演「筑豊をとらえる視点」 住学協同機構「筑豊地域づくりセンター」構想報告(読売 10/26)(西日本 10/27)(読売 10/29「再生へ交通網充実を」筑豊ゼミ 住民ら『明日』語る)(西日本 10/29「依存体質の一掃を」)</p> <p>10. 近畿大学九州工学部 新井助教授 日本計画行政学会 第1回学会賞に輝く「行動計画策定に、多数の住民の意見を聞き取りながら練り上げる手法『シンプル SIMPLE=Scenario Improving Procedure with Learning and Evaluation』を確立した功績」(読売 11/18)「行動計画策定に新手法 住民の声反映」(西日本 11/18「社会システムづくり調査法」(朝日 11/24)「街づくりの新理論で学会賞 住民の利害調整が特徴」)</p> <p>(西日本 12/24) “この一年'89 筑豊 地域づくり” 「創成事業に多彩な案」 「筑豊ゼミがセンター構想」(西日本 12/27) 地域づくりの可能性を探る「筑豊ゼミ」事務局長 加地豊さん「資金づくりにアタック」</p>
-----------------------	--

1990年（平成2年）

一 九 九 十 年	<p>(西日本 1/1)筑豊イズムアップ 川筋気質の徹底研究(1)[座談会]私のイメージ「生活も語らいも本音勝負」「遠賀川と石炭が結びついた所産」</p> <p>(西日本 1/4)筑豊イズムアップ 川筋気質の徹底研究(2)[座談会]歴史と特性「石炭輸送の船頭が生む」「近代的意識育たぬ面も」</p> <p>(西日本 1/5)筑豊イズムアップ 川筋気質の徹底研究(3)[座談会]人物像と背景「曲ったことが大嫌い」「独自の感性と生活様式」</p> <p>(西日本 1/6)筑豊イズムアップ 川筋気質の徹底研究(4)[座談会]筑豊の根っこ「女坑夫に教えられ知る」「炭鉱の闇、近代の闇」</p> <p>(西日本 1/7)筑豊イズムアップ 川筋気質の徹底研究(5)[座談会]負の遺産「負の遺産」「そこに理屈抜き精神」</p> <p>(西日本 1/8)筑豊イズムアップ 川筋気質の徹底研究(6)[座談会]筑豊の一体論「未来開く結束こそ」「地域の独自性を基礎に」</p> <p>(西日本 1/9)筑豊イズムアップ 川筋気質の徹底研究(7)[座談会]明日への視点「心の豊かな古里がある」「アジア問う筑豊の経験」</p> <p>(西日本 1/6)タクシー会社専務 加地豊さん「人材を育てる組織を」</p> <p>(西日本 1/7)米穀店経営 小野聖毅さん「地域おこしを広げる」</p> <p>2.7 第4回「ふくおか地域づくりセミナー」(飯塚市)コーディネーター:日経産業消費研究所地域経済研究部亀池宏部長 パネリスト:筑豊地域づくりセンタープロジェクトチーム前田昌亮座長、新潟県安塚町長、山形県西川町企画開発課長、岩手県岩泉町アトリエ代表 (西日本 2/8「マイナス材料を転換」)(読売 2/8「地域づくりへ 300人討議 新潟の活動聞き入る」)</p> <p>2.24 第3期筑豊ゼミ実行委員会設立発起人山田登志夫代表ら「第3期筑豊ゼミ開講要望書」提出(読売 2/25「来期も開講に全面協力」)(朝日 2/25「近畿大が快諾 5日から募集」)(読売 3/4「受講生あすから募集」)(朝日 3/4「第3期生を募集」)(西日本 3/9「地域浮揚を目指して 第3期受講生を募集」)(毎日 3/10)</p> <p>(読売 2/27)筑豊ゼミ 地域づくりセンター素案手直し2回目 最終案づくりへアンケート「基金2億円を提案 事業の内容しぼる」</p> <p>(西日本 2/27)筑豊ゼミ 地域づくりセンターへ着々「第二次聞き取り調査実施中」</p> <p>3.4 2期生が近大工学部体育館南側にリンゴの成木3本を記念植樹(読売 3/5「筑豊ゼミ1年間の講義に感謝 2期生がリンゴ植樹」)</p> <p>3.9 筑豊ゼミ第2期「閉講式」本郷学部長 フランスの詩人、ポール・ヴァレリーの誌「海辺の墓地」を引用してお祝いの言葉贈る。(読売 3/11「2期生113人が“卒業”」)(西日本 3/11「地域浮揚目指し113人」)</p> <p>4. 筑豊ゼミ第3期生 応募者定員の倍 約100人(読売 4/8「筑豊ゼミ 輪ひろがる」)</p> <p>筑豊ゼミ「川崎教室」第2期受講生募る(読売 4/28)</p> <p>(西日本 4/10)筑豊に新しい風を(1)嘉徳劇場シンポの参加団体紹介 筑豊ゼミ(本郷英士実行委員長)「全域浮揚の道探る」</p>
-----------------------	---



1990年（平成2年）

一 九 九 十 年	<p>4. 20 筑豊ゼミ第3期開講式 本郷学部長挨拶 5学科の学科長 学科の概要説明 1, 2期生との合同ゼミの機会を増やし、筑豊ゼミ全体の交流を図る（西日本 4/21）</p> <p>4. 22 筑豊イズムシンポジウム「みんなで語ろう筑豊イズム」（西日本新聞・テレビ西日本主催）「都会にない街づくりを」（野見山ミチ子さん）「新しい文化の創造めざそう」（田中耕介飯塚市長）「今後も地域おこしの場に」（伊藤英子嘉徳劇場代表）「人が主役を演じる街に」（稲積謙次郎西日本新聞編集局長）今後の構想として、筑豊活性化を目指して「筑豊地域づくりセンター」設立のため2億円基金推進などが提唱された。（西日本 4/23「広域連携訴え 具体的提言相次ぐ」） （西日本 4/29）「かわすじ今日談」 「日はまた昇る」 筑豊イズムシンポ 筑豊賛歌ともいうべき古里意識の高揚 近世史において筑豊という地名は最初に「日本一の出炭地」として、次いで「エネルギー革命に伴う産炭地の悲劇」として、そして今「筑豊は未来へ羽ばたく地域」として脚光を浴びている。</p> <p>5. 22 筑豊ゼミ「地域づくりセンター」設立の第三次シナリオ（最終案）を発表。2億円基金運動を起こし、来年10月をめどに設立を目指す。（西日本 5/23「筑豊おこし『住・学』連携」）（読売 5/24「『素案』まとまる 総合視野で組織」）</p> <p>5. 26 筑豊ゼミ 奥田八二知事に「筑豊地域づくりセンター」設立を目指した報告書を手渡し、協力要請（読売 6/2）</p> <p>6. 筑豊ゼミ 「筑豊地域づくりセンター」についての最終構想案をまとめた報告集を出版（読売 6/9「『筑豊地域づくりセンター』最終案まとまる ふるさと浮揚に提言」）（西日本 6/10「筑豊ゼミの報告書が完成 ネットワーク化提言」）（フクニチ 6/19「地域づくりセンター設立へ」） （西日本 6/19）「筑豊イズムアップ 連帯と自立への挑戦」 地域づくり報告書から(上)「ふるさと再生へ情熱の結集を」 「筑豊ゼミ」の地域づくりセンター研究 「人づくりに強い意欲 行政側や住民への提言も」 「前田昌亮・準備会長に聞く：今からが設立の正念場」 （西日本 6/20）「筑豊イズムアップ 連帯と自立への挑戦」 地域づくり報告書から(中)「住と学の連携」 「全域の活性化視野に 住民意識が将来を決める」 （西日本 6/21）「筑豊イズムアップ 連帯と自立への挑戦」 地域づくり報告書から(下)「熱き郷土愛」 「自らの手で地域再生を 人的エネルギーを結集」</p> <p>6. 22 筑豊ゼミ「謝恩パーティー」（飯塚会館）開く、ゼミ関係者、「筑豊地域づくりセンター」聞き取り調査協力者など、約180名が参加（読売 6/22）「きょう謝恩パーティ 筑豊ゼミが近大や地域に」（読売 6/24「地域おこし仲間大集合」）（西日本 6/27）</p> <p>6. 26 奥田八二福岡県知事に支援要請：筑豊ゼミ「地域づくりセンター」構想準備会前田昌亮座長ら（加地さん、新井先生を含む）代表が、「地域づくりセンター」最終構想案の報告書を手渡し「センターを軸に筑豊再生へ向けて果敢に挑戦していきたい」訴えた。奥田知事は「皆さんの活動に大いに期待している。基盤整備などで件としても筑豊地域の活性化に努力していきたい」と述べ、期待感を表明した。（朝日 6/27 県内版）（西日本 6/27 県内版）（読売 6/27）（フクニチ 6/27）（毎日 6/28）</p> <p>7. 14 近大3学園教職員組合「近畿大学三学園の未来を探して-地域と共に」をテーマにパネルディスカッション 司会：伊藤英昭（建築学科） パネリスト：豊田文彦（教養）、坂本栄治（工化）、菊川清（工化）、長谷川徹也（経工）、学外から 沖縄大学教授山門健一さん、飯塚市企画課長松岡兼喜代さん筑豊ゼミ前事務局長加地豊さん（西日本 6/28「学園都市の役割展望 来月公開討論会」）</p>
-----------------------	--

1990年（平成2年）

一 九 九 十 年	<p>(朝日 8/9)「人/ひと/ヒト」 「第二の古里のために頑張ります」前田昌亮さん(50) 炭鉱閉山の後遺症を引きずる筑豊を民間人の手で再生しようと、財団法人「筑豊地域づくりセンター」設立を目指すプロジェクトチーム座長</p> <p>8.8 サンビレッジ茜 完工式(西日本 8/9「楽しく遊べる施設」 「目玉は日本一の人工芝スキー場」)</p> <p>8.24 筑豊ゼミ街づくり分科会都市計画部会(松村一弘部会長) 12人が田川市を視察。建設中の美術館を見学後、滝井義高市長から「緑の鉱業都市を目指し、教育の充実など人づくりに力を入れている」という田川市のまちづくりについて聞いた。(読売 8/25) (読売? 8/26「田川のまちづくり視察」)</p> <p>8.25 筑豊ゼミと社団法人熊本県青年塾と県境を越えて初めての交流 筑豊ゼミが県内代表として紹介されて交流:サンビレッジ茜、立岩公民館で意見交換、遠賀川炎のまつり見学、ペンションリンゴ村で「よなべ談義」(西日本 8/17「地域づくりで県際交流へ」) (西日本 8/26「県際交流で新たなきずな」(毎日 8/26「熊本の団体員とムラおこしで交流」) (読売 8/27「筑豊ゼミ 熊本青年塾 ムラおこし交流 26人嘉穂で夜なべ談義」)</p> <p>8.25 遠賀川炎のまつり(直方市役所下や中之島公園)(西日本 8/26, 24?)</p> <p>8.28 筑豊ゼミ今年度第1回特別ゼミ(午後6時半～近大九州工学部) 飯塚地区に進出を予定している2グループ(麻生セメントと西部セゾングループが飯塚市芳雄の麻生セメント本社跡地に予定しているニューイヅカシティ(NIC) 構造)と日鉄鉱業とジャスコグループが穂波町枝国の旧日鉄二瀬鉱業所本部跡地の穂波パークシティ構想)の開発担当者を招き、進出の背景と今後の展開を聞くもので、ゼミ生以外も聴講できる。(朝日 9/28「筑豊おこしにどうつなぐ 計画と地域の結びつきテーマに 進出の2大型店囲み講演と質疑 一般の参加呼びかけ」) (読売 9/28「筑豊ゼミが特別講座 きょう進出2大型店の話聞く」) (西日本 9/28「筑豊ゼミ きょう特別ゼミ開講 大型店進出計画をテーマに」) (読売 9/30「進出大型店と”飯塚おこし” 計画の2グループ市民の声を傾聴」) (西日本 9/30「筑豊ムラおこし特別ゼミ開く 出店予定の西友、ジャスコ 筑豊の活性化で貢献強調」(毎日 11/2)“人脈紀行”「ふるさと」を興す*9* 林 明さん(筑豊ゼミ第3期事務局長)「人的ネットワーク『住学協同』」「旧産炭地・筑豊の暗いイメージを払うのが目的。自分たちの生活の場を卑下する生き方はしたくない」「停滞から脱出する大同団結」「それだけニーズがあったんでしょ。若い人はイデオロギー論争や古いシステムに満足できずにいるんです」(加地豊第1期事務局長)</p> <p>第3期の現状 林明さん「新受講生105人、継続組と川崎教室の35人を入れて約200人。9つの分科会に分かれてゼミを持っている」ゼミの最大の成果は「人と人のつながりが生まれることにある。人的ネットワークができつつある。」</p> <p>(日経 11/5)“列島ワイド”『飯塚』「さらば炭鉱の町」 「学園都市へ着実」 「人口の5%学生」 「住学協同めざす」 『大牟田』 「今再生の息吹」 「大遊園地を目指す」 「市の工業団地売れ行き好転」</p> <p>11.16 筑豊ゼミ特別講座 「筑豊発、21世紀への松下電器の戦略」松下電器九州地区研究所推進室長 小山 富夫さん(読売 11/11) (朝日 11/18「松下電器の小山室長講演」 「中・高校レベル向上を」 「研究学園都市の基礎固めに不可欠」 九州では飯塚以外に福岡市、熊本県に研究所を進出、飯塚を選んだ理由①行政が誘致に熱心だった ②都会的な機能を有し、若者に魅力がある ③伝統的文化が根付き、かつて石炭産業において主導的役割を果たした ④国際交流上アジアに近い)</p>
-----------------------	--

1990年（平成2年）～ 1991年（平成3年）

<p>一 九 九 十 年</p>	<p>(読売 11/17)(西日本 11/29) 筑豊ゼミまちづくり分科会都市計画部会「歩いて楽しいまち」をテーマに、田川市伊田・後藤寺地区のまちづくり案を一般募集 応募は来年1月25日まで (西日本 12/26)“この一年’90筑豊”「地域振興」 嘉穂劇場に35団体結集「みんなで語ろう筑豊イズム」 筑豊ゼミ最終報告書完成</p>
<p>一 九 九 一 年</p>	<p>(読売 1/1 元旦第7部読売新聞広告特集)「筑豊新時代への曙」 迎春/魅力あふれる元気な街づくり・・・/遠賀川の流域に広がる私たちのふるさと「ちくほう」。/一世紀近くの石炭時代を私たちの街が支えた。/近大日本の夜明けの時代に/大きな歴史を刻んだ「ふるさと」は、/文明の進歩により転換を余儀なくされた。//今、筑豊地区では、/住民によるムラおこし運動が進められ、/歴史の後遺症を引きずる「石炭」のツメ跡をいやし、/新たな時代に向けて、活性化の動きを伝えてくれる。/「フルーツの里」嘉穂町のりんご村運動を初め/過疎地、赤村では都市部の住民を対象にした/「DO・YOU・農？」の定着など/その他、たくさんの活動の輪が広がっている。/こうした各地の運動を結んで交流を図ろうと/「地域おこし全的ネットワーク」を進めている。/近畿大学九州工学部を会場に発足した/「筑豊ムラおこし、地域づくりゼミナール」(筑豊ゼミ)。/いま、人と情報を集約し、地域に発信する/住学協同機構「筑豊地域づくりセンター」の/設立を目指している。(後略)</p> <p>(西日本 1/9)「明日の田川を考える30人委員会 官民で広域地域づくり協議 自立プラン5月に答申」田川市郡の自治体若手中堅職員と地域づくりリーダーらが参加して「明日の田川を考える30人委員会」を結成、英彦山、上野焼窯元、石炭資料館を有機的に結びつけた観光ルートや新たな大学誘致を検討するなど、これまでになかった広域的な地域づくりの協議を進めている。</p> <p>1. 「筑豊の翼の会」(県女性研修の翼に参加した筑豊の女性の会)が高齢化社会における老人福祉の在り方を厳しく問う記録映画「安心して老いるために」を2月、田川、直方、飯塚三市で自主上映する。(西日本 1/18・1/22)</p> <p>1. 筑豊ゼミ地域福祉を考える分科会は筑豊25市町村に対する高齢者対策事業の実態調査をまとめた。老人福祉センターなどの施設や福祉バスなどのハード面では充実しているが、老人福祉事業の手引書や民間組織に対する運営援助事業などソフト面で遅れている。(西日本 1/20)</p> <p>1. 25 第8回筑豊ゼミ特別公開講座・新年交流会(九州寿会館)「筑豊発、地球環境とエネルギーを考える」講師:相田哲夫教授 一般聴講歓迎(講演会500円、新年交流会3500円)(読売 1/21・1/24)(西日本 1/22・1/25)</p> <p>(西日本 2/5)“筑豊イズムアップ”取り戻せ地方自治(第二部)「住民たちの挑戦」「広域振興は住民参加で 田川の明日を考える30人委」</p> <p>2. 7 「筑豊の未来を語ろう国際シンポジウム」(予告)筑豊産炭地域拠点開発基礎調査委員会(通産省の外郭団体・地域振興整備公団が’90/10 設置:3月目標にトヨタ自動車進出の波及効果を地域全体に活かすための開発構想策定中)(直方市民会館)記念講演フランス・アルザス開発公社理事長アンドレ・クライン「地域開発と文化」、パネルディスカッション「筑豊の未来を語ろう」パネリスト:麻生泰・麻生セメント社長、佐々木俊介・三菱総合研究所参与、沢登信子・ライフカルチャーセンター社長、本郷英士・近大九州工学部長 (西日本 1/12・2/1・2/6)「石炭後の活性化策を探る」(読売 2/4)(毎日 2/5)(朝日 2/6)「筑豊浮揚に青写真探る 仏の手法も学ぶ」</p>

1991年（平成3年）

一 九 九 一 年	<p>2. 7 「筑豊の未来を語ろう国際シンポジウム」(報告)(西日本 2/8「経済、文化共存の開発を 1000人が参加提言相次ぐ」「自立、人づくり促す」「記念講演:過去の遺産の上に新しい文化を」「パネルディスカッション:地域活性化で熱い論議、麻生泰氏 夢を描き自信を持とう。頼ったり、待ったり、羨ましがったりしてはいけない。佐々木俊介氏 熱い心とさめた目で。市民が地域を選択する時代。可能性のある地域は①新しい価値をつくれるか ②地域を超えた発想と行動 ③人の意欲と能力を生かす一で測れる。沢登信子氏 女性の智恵を社会に。生活者としての自立を無くしている男性より、女性が声を上げるべき。資源が有限ということをもつて知っている筑豊が、環境保護など具体的な提言を。本郷英士氏 各地区が方向性を持とう。大学の役割は具体的提言ではない。地域の新しい方向の理論的支えをするところだ。筑豊の将来を決めるのは住民自身。地区ごとに方向性を考えると、飯塚は情報を核としたソフト、直方はニューハードと呼ばれる分野、田川は四年制に昇格する県立社会保育短大をベースにしたものか。それぞれの地区はそれぞれの方向性を持ち、緩い結束をすればいいと思う。それが「筑豊はひとつだ。」(読売 2/8「筑豊の未来を模索」)(朝日 2/8「技術と文化の調和が必要 仏の開発公社理事長」)</p> <p>2. 8 第3期筑豊ゼミ活動報告会 産業おこし[部会:地域産業、進出企業と地場産業、産業デザイン]、まちづくり[部会:高齢者のためのまちづくり 都市計画]、住民自治、くらしと教育、風土と歴史を考える の6分科会 9グループが報告 産業デザイン部会:田川、飯塚、直方3市の現在と将来の地域イメージを色で表わす試み 高齢者のためのまちづくり部会:老人福祉アンケート 都市計画部会:歩いて楽しいまちづくりをテーマに田川市内に「伊田学園ロード」「自然と歴史と買い物みち」など4コースの整備をハード、ソフト面から提言。(読売 2/10「田川に4つの道提言 専門家以上の案、次々」)(西日本 2/10「年間活動を総括」)(読売 2/16「支局の窓から」「歩いて楽しいまち・田川 筑豊ゼミ報告書」)</p> <p>2. 17-18 石炭鉱業審議会・鉱害部会児玉清隆会長ら委員12名が、10年ぶりに、九州の旧産炭地を現地調査 (紙名、月日不詳、但し2月6日以前)</p> <p>2. 11 筑豊ゼミ「筑豊市長選ゲーミングシミュレーション」説明会(九州工学部)(読売 2/11)</p> <p>2. 17 (予告)筑豊ゼミ「筑豊市長選ゲーミングシミュレーション」(近大経営工新井潔助教授がグローバルシミュレーションの手法をもとに考案)を用いて、嘉飯山、直鞍、田川三地区がそれぞれ大飯塚、大直方、大田川の各市に合併し、さらに筑豊市に一大合併が実現した時代を想定して、三市の各市長が初代筑豊市長を目指して立候補する模擬選挙を九州工学部で実施(西日本 2/7「初代筑豊市長は誰に?3市長出馬で政策論争」)(朝日 2/7「筑豊が1市になったら 3候補が問題指摘し将来像」)(毎日 2/9「筑豊地域が筑豊市に?」)(読売 2/10)「支局の窓から」広域合併の未来像は 架空筑豊市模擬市長選」(読売 2/16「あす模擬筑豊市長選 3候補政策を研究 当選目指し、懇談会で訴え」)(同上報告)選挙のシミュレーションは日本で初めてという「筑豊市長選ゲーミングシミュレーション」選挙には大飯塚市長(井上有比古氏)、大直方市長(船越裕一氏)、大田川市長(太田勇司氏)が立候補、政策文書の交換を50分単位で6回繰り返し、最後に3候補でシンポジウム これに地元の商工、建設業界や、婦人、労働団体などのリーダーが加わり、地元市長を応援したり、自分の利害で寝返りを演じたり、最後に投票で決着 午前9時過ぎから午後4時過ぎまでのマラソン選挙。ゼミ生や一般市民約150人が参加。地元のマスコミ関係者もキャスターやリポーターとして加わり、盛り上げた。(読売 2/18「熱気の“筑豊市長選”50万都市の夢を訴え」)(朝日 2/18「近大の新井助教授が考案 復興目指し模擬</p>
-----------------------	---

1991年（平成3年）

一 九 九 一 年	<p>選挙 激しい票争い7時間も」（毎日 2/18「地域の将来像見すえ」（西日本 2/18『筑豊市』へ活発な論議）</p> <p>2. 22 筑豊ゼミ窪山邦彦実行委員長、第4期ゼミ設立発起人会太田勇司代表ら、本郷学部長に開講要望書を提出。本郷学部長、快諾し、協力を約束（読売 2/23）（西日本 2/23）（毎日 3/2）（西日本 3/2）</p> <p>「筑豊ゼミ 第4期生募集へ（ゼミ最大の特色である相互学習を継続しながら、講演会を年間を通して実施するなど）受講内容を一新、活性化」（朝日 3/11）（朝日 3/12「筑豊ゼミの受講生募集」）</p> <p>3. 2 稲築町商工会青年部「夜なべ談義」開催。飯塚青年会議所が呼び掛け、嘉飯山2市8町で持ち回りで開催。（西日本 2/23）「語ろう 地域おこし」</p> <p>3. 3 第3期筑豊ゼミ修了生 記念にリンゴ植樹（読売 3/4）（西日本 3/6 わが町特派員報告）</p> <p>3. 8 第3期筑豊ゼミ修了式 ゼミ会長の本郷学部長が「愚公山を移す」の故事にならって「長期的な展望の上に立ち、焦らず、慌てず、一歩、一歩前進して下さい」と励ましの挨拶。「ちくほう翼の会」から、映画「安心して老いるために」の益金の一部、50万円が活動費として贈呈された。（読売 3/7・3/10）（西日本 3/9）（朝日 3/11）</p> <p>3. 10-28 田川郡金田町「町づくり懇談会」を10、18日（役場職員・商工会・教育スポーツ関係）28日（農業関係）の3回開催 アドバイザーに近大曾根靖史教授、筑豊地域づくりセンター加地豊事務局長（西日本 3/10・3/12「120人が熱心に意見交換 主婦層の発言目立つ」）（毎日 3/12「産炭地脱却ビジョン探る」）</p> <p>3. 14 金田中学卒業生がリンゴ植樹 PTA 会長が筑豊ゼミで知り合った縁で嘉穂町のフルーツ共和国から譲ってもらおう（西日本 3/17）「地域おこしが結ぶ」</p> <p>3. 23 筑豊ゼミ町づくりを考える分科会都市計画部会 「田川をモデルとして歩いて楽しいまちづくり」入賞作と提言発表が田川市中央公民館で。メンバーの一人市職員植木康太さん「この報告書を行政がコンサルタントに頼んでつくれば、1千万円はかかる。手弁当でやったが100万円近くかかった」（読売 3/23）（読売 3/24「歩いて楽しいまちづくり模索 田川に4本の道必要 募集論文6人入賞」）（西日本 3/24「道路性格付け整備 優秀賞に開田さん」）（朝日 3/24「楽しく歩ける4路線を 田川市をモデルに構想」）（毎日 3/24「入賞作品の7人を表彰」）</p> <p>（西日本 3/31）「取り戻せ地方自治第3部」50万人の足元 '91 統一地方選課題 「石炭六法後」「未来へ繋ぐ振興策を 住民の危機感にこたえて」</p> <p>（世界 4月号）地方自治のキーワード10「協働」</p> <p>4. 9 住学協同機構「筑豊地域づくりセンター」設立準備会時任英雄代表らが、近大九州工学部本郷学部長にセンター事務局を同学部内の一角に設置を要望。当初、財団法人の資格を受けた後旗揚げ予定だったが、「財団に拘らず、自分たちの足で立ち上がろう」と、まず任意団体として発足する。（読売 4/10）（西日本 4/10「任意団体から法人化目指す 将来は受託研究も」）（毎日 4/11「近大の支援は不可欠」）</p> <p>4. 19 筑豊ゼミ第4期が開講 本郷学部長が足を半歩だけ踏み出すという意味の「跬歩」（きほ）という言葉を贈り励ました。（読売 4/21）（西日本 4/21「テーマ発見へ80人意欲」）</p>
-----------------------	---

1991年（平成3年）

一 九 九 一 年	<p>4. 26-27 日本計画行政学会九州支部筑豊大会「地域活性化の新しい動き」をメインテーマに近大九州工学部で開催（読売 4/10“支局の窓から”4/12「トヨタの思想を聞こう」「トヨタ副社長が講演」）（毎日 4/25）（朝日 4/27「地域浮揚策で意見交換 企業と共同で解決を 講演などに250人が参加」）（読売 4/27「トヨタの東・専務講演 地域との連携強調 期待込め400人の聴衆」）（西日本 4/27「起爆剤としての役割を 筑豊の各首長 トヨタ自動車専務と懇談」）</p> <p>5. 12 筑豊ゼミ「イベントシンポジウム」開催 「世知原ボタ山コンサート」（長崎県世知原町）林健二さん「ボタ山を明るく」、「'91 筑後川フェスティバル」（久留米市）白石勝洋さん「流域の一体感喚起」、「鹿島ガタリンピック」（鹿嶋市）福井正さん「波及効果徐々に」、「I Love 遠賀川」曾根靖史さん「自らが考え行動を」。（西日本 7/14「人材を育てながら 参加者の郷土愛を 先進地の成功例に強い関心 活性化目指し実践法模索」）</p> <p>5. 22 筑豊ゼミ川崎教室開講（紙名不詳 5/25）「第3期テーマ掘り下げ論議」（読売 5/9“支局の窓から”）「川崎教室地域を学ぶ 22日から開講」（西日本 5/22）</p> <p>7. 17 筑豊ゼミ川崎教室の公開学習会「暴力組織と青少年教育」福岡県警暴力団取締担当の捜査4課長 古賀利治さんが講演（読売 7/19）（西日本 7/19「組織暴力団をテーマに」）</p> <p>7. 26 住学協同機構「筑豊地域づくりセンター」7月例会：地域在住の議員2人を招き特別講座「議員活動と住民自治」開催（西日本 7/28「住民議員が活発な論議 議員への注文も相次ぐ」）</p> <p>8. 2 県筑豊地区タクシー協会はタクシーの日（8/5）にちなみ、草の根のまちづくり・イベントに支援金を贈る選考会を開き、8団体（嘉穂劇場友の会、まつりくらじ「夢」、彦山川親子ふれあい釣りぼり大会、フレッシュコンサート、よか伊田まち会、宮田町盆踊り大会、しじみ祭り、ル・マンちくほう「筑豊再発見ラリー」）に各5万円を贈る。（西日本 8/3）（朝日 8/6）</p> <p>8. 23 住学協同機構「筑豊地域づくりセンター」8月例会：「筑豊産炭地域拠点開発基礎調査報告書」を学ぶ（読売 8/23）</p> <p>8. 25 筑豊ゼミ第4期イベント企画委員会が企画した ル・マンちくほう「筑豊再発見ラリー」（読売 8/26）「文化財や自然楽しむ」</p> <p>9. 13 筑豊ゼミ9月例会 飯塚市和多八州男・都市計画課長を招き「都市景観条例」を学ぶ（西日本 9/15）（読売 9/15）</p> <p>10. 11 筑豊ゼミ10月例会「男と女の国際井戸端会議」（読売 10/5・10/7）（西日本 10/10）「外から“筑豊人”検証」「外国人の目に映る日本・筑豊はどんな姿？パネリスト：ダグラス・ヨーク（米男性）さん、マイケル・ティニックさん（米男性）、マリア・テラさん（加女性）に米国生活10年の相田哲夫近大教授 コーディネーター：宮嶋玲子さん &lt;外国語学習、言葉の理解から。感情の交換が無ければ、良い教育は望めない&gt;&lt;日本人の男女間には、恋愛感情が無ければ友情も育たないように見える。深くて清純な男女関係がないのは残念&gt;&lt;ニッポン人遊び方ぎこちない&gt;（西日本 10/13）（読売 11/13）</p> <p>11. 8 筑豊ゼミ11月例会「“黒ダイヤ”から“ひかりダイヤ”へ」をテーマに「筑豊の市町村が合併した人口50万の筑豊市を想定し、川口武寿同駅設置促進協議会理事を市長役に、参加した40人のゼミ生が「記者団」として、“地価が高騰しないか”“財源はどうするか”“新駅周辺開発で既存商店街が打撃を受けないか”などの質問。アドバイザー：新井潔近大助教授（読売 11/4「『産業おこし』が主題」）（西日本 11/7「『新幹線筑豊駅』で討論」（朝日 11/10 に詳しい）（西日本 11/10「古里づくりの起爆剤」）</p>
-----------------------	---

1991年（平成3年）～ 1992年（平成4年）

<p>一 九 九 一 年</p>	<p>11. 19 地球環境とエネルギーに関する国際シンポジウム（西日本 11/16「石炭の硫黄除去で新技術 脱硫率98%達成 同シンポジウムで近大相田教授発表」） （西日本 12/24）“この一年’91筑豊”「地域振興」産炭法の10年延長決まる 地域づくりの動きも活発</p>
<p>一 九 九 二 年</p>	<p>1. 24 “筑豊ゼミ 特別講座「生活保護のしくみと現状」講師：田川福祉事務所熊崎秀徳係長（読売 1/22「生活保護を考える」）県内では昭和30年まで全国一少なかったが、石炭産業衰退とともに増え、 38年にピークに達した。田川地区は年に500世帯ずつくらい減っているが、自立を阻害する要因は減 っていない。」（読売 1/26『生活保護』を学ぶ）</p> <p>2. 14 筑豊ゼミ2月例会：「筑豊ゼミの内幕」と題して、この1年取り組んでイベントを振り返った。（読売 2/13）「筑豊ゼミ飯塚活動振り返る」（読売 2/16「4期生最後の講座」）</p> <p>2. 20 川崎町「森安まちの政治を見つめよう学級」が「筑豊ゼミ川崎教室」のゼミ生30人を招いて「田 川はひとつ 未来の田川を語る」をテーマに交流学習会（読売 2/22『田川は一つ』熱い討論 川崎町 内の2グループ 交流学習会）</p> <p>2. 27 第5期筑豊ゼミ実行委員会設立発起人会が本郷学部長に 第5期開講要望書を提出（読売 2/28『筑豊ゼミ』来年度も開講へ 近大九州工学部が支援を約束） （西日本 3/3）“こんにちは” 筑豊ゼミ第5期ゼミ実行委員会設立発起人会代表 飯野大作さん「市 民に開かれている大学をいかに活用するか、が一番大切なところ。そのために十分なおぜん立てをし ていきたい」</p> <p>4. 8 筑豊ゼミ4期生 終了記念にリンゴ植樹（読売 4/8? or 9）「修了式は13日午後8時～」</p> <p>4. 17 筑豊ゼミ第5期開講（読売 4/19）</p> <p>4. 25 「飯塚広域圏の明日を考える」主催：九州経済調査協会 後援：筑豊ゼミ、飯塚広域市町村圏 事務組合（読売 4/8）「嘉飯山の未来考えるシンポ 25日飯塚で 住民4人が意見陳述」（読売 4/26）「筑 豊で初の九州まちづくりシンポ 『旧産炭地、早く脱皮を』小川山口大教授（基調講演）が強調」「パネル ディスカッション：パネリスト 新井潔 近大助教授、大里叶 遠賀川に鮭を呼び戻す会事務局長、樺島 典仁飯塚青年会議所理事長、宮嶋玲子飯塚女性ネットワーク代表</p> <p>6. 4 「筑豊ゼミ」と住学協同機構「筑豊地域づくりセンター」は飯塚コスモスコモンで交流会「大学院の ある筑豊（まち）」開催：本郷英士学部長講演、その後交流会 参加費：講演会のみ500円、交流会25 00円 230人が参加（読売 5/20・6/6）「常に活性化を求めて 本郷さん訴え」</p> <p>7. 10 筑豊ゼミ7月例会 担当は女性ばかりのグループ第6班（福井康恵班長）（読売 7/7）「筑豊ゼミ 初の女性グループ」</p>